

TSUKU COMM

「ツクコム」

TSUKUBA COMMUNICATIONS 2016 ▶▶

WINTER

VOL. 30

対談

AIと情報化社会の未来。

西垣通氏

×

中山伸一

東京経済大学教授
東京大学名誉教授

筑波大学副学長
附属図書館長



- 08 世界遺産／file#6 麦積山石窟群
(シルクロード：長安―天山回廊の交易路網)
- 10 聴／白井哲哉 教授
- 12 OBOG／福見友子 氏
- 14 名物先生登場／藻利國恵 教諭
(附属聴覚特別支援学校)
- 16 躍動する！筑波大生

- 18 Homeland／オーストラリア連邦
- 20 TOPICS
- 24 受賞表彰
- 26 校友会・茗溪会・紫峰会
- 28 リレーエッセイ
- 30 新聞掲載・テレビ放送一覧
- 31 イベントカレンダー

筑波大学

対談

AIと 情報社会の未来。

SPECIAL TALKING



高度化する情報化社会をどう生きるか。

基礎情報学研究の第一人者として知られる西垣通氏と、
本学附属図書館長でもある中山伸一副学長が、
「AIは人間を超えるのか」
「生命の本質とコンピュータ」などについて、それぞれの信念や深い考察を語り合いました。



西垣 通氏

東京経済大学教授
東京大学名誉教授

1948年 東京都生まれ
1972年 東京大学工学部計数工学科卒業 日立製作所 入社
1980年 米国スタンフォード大学に客員研究員として留学
1982年 東京大学で工学博士取得
1986年 日立製作所退職 明治大学法学部助教授
1996年 東京大学社会科学研究所日本社会研究情報センター教授
2000年 東京大学大学院情報学環教授
2013年 東京経済大学コミュニケーション学部教授



中山 伸一 副学長 附属図書館長

1956年 北海道生まれ
1979年 埼玉大学理工学部化学科 卒業
1981年 埼玉大学理学研究科化学専攻 修了
(財)相模中央化学研究所 研究員補
1982年 図書館情報大学 助手
2000年 図書館情報大学 教授
2002年 筑波大学 図書館情報学系 教授
2012年 附属図書館長
2015年 筑波大学副学長

文系から理系、そして文理融合へ

中山：西垣先生とは、情報メディア学会でお会いしますが、ずっと文系の研究者だと思いついていました。歴史小説なども出版なさっていますし…。今回略歴を拝見して驚いたのですが、東京大学の工学部を卒業されて、エンジニアとして日立製作所に入られたんですね。

西垣：そうなんです(笑)。文系でもよかったのですが…。父が、明治大学の文系の教授で、詩や俳句を作る文人でしたので、文学、歴史、哲学の本などに囲まれた環境で育ちましたから。ではなぜ理系に行ったかということ、大学に進学した当時は戦後の復興期で、「日本は科学技術で国を立て直していこう」という気運があり、「エンジニアになる」というのがはやっていました。それに私も付和雷同したわけです(笑)。私の方が、中山先生より世代的にちょっと上ですよ。

中山：8年くらい違うようですね。西垣先生が学生の頃は、学生運動も盛んで、大学が何かと厳しかった時代ではないですか？私は、それがちょうど終わった頃に、こっそりに入った感じです(笑)。

西垣：周りには、学生運動をやっている人もいましたが、私は参加せず、サイ

バネティクスやコンピュータに興味を持っていました。それで日立製作所に入って、最初は、OSやデータベースの研究をやっていたのです。

中山：理工系中の理工系ですね。

西垣：そうです(笑)。日立製作所から、アメリカのスタンフォード大学に客員研究員として留学しました。その当時、人工知能(AI)がブームでした。今もまたブームになっていますけれど…。

中山：今は3回目くらいのブームですかね。

西垣：スタンフォード大にいた時は2回目の頃ですね。あの大学は、知識工学やエキスパートシステムの本山ですから。この留学が大きな契機となって、「機械に心があるのか」とか、「機械と人間の違いとは何か」というような問題に興味を持つようになりました。その後日立製作所に戻ったのですが、過労で体を壊したことをきっかけに退社しました。

中山：それで、明治大学法学部助教授になられたと。ここで文系に転身したのですね。

西垣：工学部に行ったらまた忙しいから、教養学部に行つてのんびりやろうと思ったんです(笑)。

中山：なるほど(笑)。

西垣：大学に戻ってからは、昔から興味があった「情報と人間」とか「情報と社会」について勉強しました。これらは、「AIの可能性と限界」というようなテーマと、非常に密接に関連するわけです。そのうち、「もともと機械は思考できるのか」というような問題がポイントになってきて。そうなるとう哲学ですよ。そこで、90年代の半ばにフランスに留学して、フランスの現代思想を学びました。

中山：もう完全な文系ですね。お父様の影響もあったでしょうし、文系の素養があったのでしょね。

西垣：素養があったかは分かりませんが、もともと好きだったことは確かです。私が最初にコンピュータに出会った頃は、大きいコンピュータを専門家が使う時代でした。しかし、80年代、90年代になると、パソコンやインターネットなどが広まってきて、コンピュータを普通の人が使うようになりました。そうすると、私の書いたものが、割に注目されるようになりました。90年代後半に、文系の研究者として、東大の社会科学研究所からお呼びが掛かりました。その後、東大に、文理融合を旗印にした大学院情報学環というのが新しくでき、私



は、設立と同時に参加しました。大雑把に言えば、はじめ理系だったのが、文系に行って、それから文理融合と。ちょうどいいかなという感じですね(笑)。

中山: 私は大学で化学を専攻していましたが、縁あって、図書館情報大学に行きました。図書館情報大学というのは、図書館短大で文系・社会学系の研究をしていた先生たちと、コンピュータ・サイエンスの先生たちとをマージして、図書館情報学という新しい学問領域を作ろうということで誕生した大学です。私は化学というバックボーンで、脇から入ったものですから、「どう融合していくのか」とちょっと傍観していたところがあったんですが、最初、図書館学と情報学というのは、水と油のごとく、なかなか馴染みませんでしたね。西垣先生のように、「コンピュータをやっている文学も」という人はあまりいなかったと思います(笑)。

西垣: 理系では、情報を意味や内容に関係なく形式処理するのに対し、文系で

は、社会的・人間的な情報の意味処理が対象になるので、情報概念の組み立て方が全く違うんですね。情報学環では、文系と理系の溝を埋めて、両者を結び付けるような研究を進めていますが、両方やるというよりは、「興味はあるけれど、軸足は理系か文系のどちらか」という研究者がほとんどです。そういう意味では、自分一人で軸足を動かしたのは、私ぐらいです(笑)。ただ、確かに文系にも関わったし、哲学なども少しは勉強しましたけれど、今メインでやっている基礎情報学の理論ベースは理系で、大学の時に興味を持ったサイバネティクスなのです。

中山: 戻ってきたという感じですね。

西垣: 私が大学で勉強したのは、ノーバート・ウィーナーが提唱した、古典的なサイバネティクスなんですけど。今の基礎情報学のベースになっているのは、ネオ・サイバネティクスと言って、それがバージョンアップされたような、かなり違う学問になっています。

情報社会や情報技術のあり方を
生命の本質から考える

西垣: 古典的なサイバネティクスというのは「オブザーブドシステム」、つまり、観察されたシステムです。それに対して、ネオ・サイバネティクスは「オブザービングシステム」、観察するシステムです。どういうことかということ、例えば猫を分析するとき、「猫を外から観察する」のではなくて、「猫にとって世界はどう見えるのか」という風に、パラダイムを変えたのです。でもそうになると、本当の猫の世界は分からないわけですよ。中山先生が本当に何を考えておられるかということは、私には分からない(笑)。人間みんな分からない(笑)。そういう中で、お互いコミュニケーションしながら何らかの情報社会を作っていくにはどうすればいいか、というように考えていきます。

中山: 視点の逆転、発想の逆転ですね。先日、本学の永田恭介学長が図書館で、学生相手に10分くらいのプレゼンター



ションの授業をやっていました。永田学長は、もともとウイルス学の先生で、「ウイルスが細胞に入って、自分を複製して、増殖して出ていくという文章がある。これは間違いである。何が間違いか」と学生に聞きました。その答えは、「細胞がウイルスを取り込んで、細胞がウイルスを増殖させて、細胞がウイルスを出していく。主体はウイルスでなく、細胞である」ということなんですね。「それがウイルス学の原点で、それが理解できると、ウイルスをやっつけるというよりも、細胞がウイルスを入れないような手立てを考えるとという発想になる」というわけです。それを情報のアナロジーで考えると、昔は「情報が我々に入ってきて、情報が我々に何かをする」という、情報が主体のような考え方でしたが、これからは、「我々が情報を取り込んで、我々がその情報を何とかする」という見方で考えていかなければいけないんだろうなと思いました。

西垣：全くその通りです。人間など生命

体の最小単位は細胞で、細胞の集積として我々は生きています。細胞は主体に成り得るけど、ウイルスは主体に成り得ない。機械的な情報も主体に成り得ない。そういう見方は、基礎情報学あるいはネオ・サイバネティクスの根本です。

技術的特異点（シンギュラリティ）について

西垣：先ほど、今はAIが3回目のブームという話が出ましたが、その中心的な役割を果たしているのが、機械学習の一種である深層学習（ディープ・ラーニング）です。これが人工知能のブレイクスルーになるのではないかと言われています。さらに、それに関連して話題を集めているのが、レイ・カーツワイルが提唱している技術的特異点（シンギュラリティ）です。彼は、「30年後に、汎用のAIが人間の能力を超える。それはポスト・ヒューマンだ」と言っています。しかし、人間の決断、意思決定をコンピュータに

丸投げして、「本当に大丈夫なのかな」と感じます。コンピュータには身体がありません。プログラムを含めて、全て人間が外部から作り込んだ客観的な情報処理体ですから、価値観がなく、言われたことをやるだけです。一方、生命体は、例えばそれが原始的な生命体であっても、自分の価値観で生きています。

中山：主観と客観ということですね。生命体は主観的に生きているにも関わらず、今のAI研究は、全ての世界を客観的に捉えるという方向に進んでいっているという。

西垣：普通の科学的なパラダイムというのは、当然、主観を入れてはいけません。中山先生の化学の研究なんかもそうでしょう。しかし、心理学や社会学となると、もう少しいろいろ考えた方がいいのではないのでしょうか。

中山：化学という領域は、けっこう面白い領域で、物理学のようにロジカルじゃないんですよ。理論はありますが、実験して、反応させて見ないとわからないと



というような不確定な要素があります。図書館情報大学では、「全ての教員が情報に関わる専門の教員である」という位置付けをされていたものですから、化学の教員として入った私も何か情報に関わることもやらなければならないということになって、思いついたのが心理学でした。人間というのは、こうやってこう返ってくるという確定的な要素ばかりではないので、化学の実験手法や研究手法を応用できるのではないかと考えたのです。その頃に考えていたことの1つにカテゴライズがあります。カテゴライズ(分類)するということは、図書館情報学で、対象物をきちんと捉ええる上での一つのアプローチです。例えばNDC(日本十進分類法)という分類体系表ができあがっていますが、その裏には「人間が物事をどう捉えているか」ということがあるはずで、そのことについて、きちんと扱わなければいけないと考えました。



西垣：そうです。ハマチとブリにしてもね。生物学的には同じですが、スーパーマーケットでは、全然違う扱いです。日本文化の中では、ハマチとブリは違うものなんです。ということは、絶対的の分類というものは存在しないのです。言語学者フェルディナン・ド・ソシュールも、「概念分けというのは言語によって全部違う」ということを、さかんに言っています。それは、20世紀の思想になっているわけです。一方、深層学習の研究者は

「機械が自動的に概念を取得する」と言います。「概念を取得する」ということは、分類するということです。文系の方では「絶対的の分類はない」ということが常識になっているのに、理系の方では、「絶対的な概念があって、コンピュータが分類できる」と言うのはおかしいですね。

中山：15年くらい前に、読後感情を測る研究をしました。本を検索する時には、キーワードで検索します。そのキーワードは、「数学の本」とか「物理の本」とか、知識に関するものがほとんどで、小説を検索する時に、「楽しい本」とか「面白い本」というキーワードは使われません。感情語は、それぞれの個人の持っている概念であり、主観的なものなので、ずれがあるからです。情報検索というのは、インデクサーがキーワード付けをして、そのキーワードが、サーチャーの概念とマッチしているから実現できるわけで、それがずれていたら、いくらキーワード付けをしたとしても、検索できないわけですよ。ですから、感情語をどうやって最大公約数的に両者間でマッチできるんだろうと、調査したり、研究したりしました。具体的な方法としては、感情を8つの基本因子に分け、読者に、小説を読んでどう感じたかをその8つの感情因子の中から選択してもらいます。そのデータをたくさん集めておき、サーチャーは、その8つの因子のどれをどの程度感じたいかを選択すると、ある程度、自分の得たい感情の小説が選べます。

西垣：コンピュータは、主成分分析のようなことは得意ですから、過去のたくさんのデータを集めてきて、読みたいストーリーの本を提案することはできるでしょうし、売れる小説を書く人にアシストすることも可能だと思います。しかし、それでは、新しいことは出てこない。

天才的な作家が現れて、過去にない分野を開く、そうやって、芸術作品が生まれてきたんです。人間の素晴らしさとは何なのかというと、過去を踏まえながらも、全く新しい状況の中で、新しい意味を創り出していくということにあると思うんですね。

コンピュータとアブダクション



中山：人間のみの特性に創造性があります。チャールズ・サンダース・パースは、知識発見のメソッドには、「演繹」と「帰納」と、「アブダクション(仮説推量)」があると述べています。このアブダクションもコンピュータにはできないのではないかと思います。

西垣：AIによるビックデータ分析は、実はアブダクションをやろうとしているところがあります。でも、アブダクションは仮説推量ですから、間違える可能性があるんですね。AIがアブダクションの候補を選んできて、人間が最終的に判断するのであればいいんですが、AIに勝手にアブダクションをやらせたらどうなるか、非常に心配です。例えば、医師は診断する際にアブダクションをやっていますね。さまざまな条件や個人差などを考えながら、直感も働かせて診断している。いくらコンピュータが発達しても、取って代わるのは無理です。そこには人間と人間のコミュニケーションが欠かせません。

中山：だから、アブダクション的なものが、人間的といえば、人間的なわけですね。

西垣：人間は、アブダクションをする時に、自分が間違っているんじゃないかと不安になったりもする。それが未来という不可測なものに対して、戦って生きていくということだと思います。

集合知とスローネット



中山：本学の附属図書館で提供しているTulips Search（統合検索サービス）で、先生の論文や著書を年代順に拝見しましたが、情報工学が原点で、近年は、「集合知」についてたくさんの著書を出されていますね。

西垣：私が研究している集合知というのは、たがいに顔見知りでない人々が知恵を出し合って構築する知のことです。みんなで意見を出し合うと、意外にうまく答えが出る、という考え方でね。面倒だし、効率も悪いように見えるけれど、巨視的に見ると、けっこういいのではないかとことです。SNSなどを使い、インターネット上で誰もが発言できる現代社会では、手軽に「集合知」を集めることができるようになりました。

中山：日本のように高学歴社会になり、いろいろなことを理解できる人たちが増えてきたから、「集合知」の価値が生まれたのかなという気がします。

西垣：そう思います。みんながそれぞれ、自分の意見を発表できる技術的な下地ができていくということです。私は「AIが全てを支配することはできない」と考えていますが、AIそのものを否定しているわけではありません。汎用のAIでなく、専用のAIを作って、ビッグデータを分析し、集合知と上手く合わせていく。その組み合わせ方が今問われているんだと思います。

中山：天気予報にしても、衛星からの詳細なデータやスーパーコンピュータによる計算で、精度がかなり上がりました

が、だから農業をどうしようとか、社会をどうしよう、というようなことは、人間が考えていかなければいけないことですよ。

西垣：実は、「集合知」に着目する前は、「ものを考える教養人を育ててはいけない」と思っていました。しかし、そういう人の存在も大事ですが、今のような時代になると、教養人の出現だけを待っているわけにもいかないのではないかと。普通の人々の知恵をコンピュータを利用して上手にオーガナイズした「集合知」を、問題解決のアプローチにすることが、今後求められていくと考えています。

中山：西垣先生の著書『スローネット～IT社会の新たなかたち』（春秋社）でも、今後のコンピュータとの関わり方を提案されています。

西垣：「スローネット」は、「コンピュータを使って何をやりたいの?」という話です。実は、今、学生一人一人が好きな小説や詩を持ってきて、みんなでそれを読むという日本語ワークショップをやっていますね。ある学生が、宮澤賢治の『雨ニモマケズ』という詩を持ってきたんです。彼はそれが好きだということに、暗唱していませんでした。あれほど有名な詩なのに、暗唱している学生は一人もいなかった。ちょっとスマホで検索すればすぐに出てくるから覚えなくていいと思っているんですね。私は、「それじゃ駄目なんだ。詩句を全部覚えて、それが自分の血肉になっていれば、会社で働いていて、何か具体的な問題があったときに、こういう生き方、こういう価値観が大事なんだな、とぱっと浮かんでくる。それで初めて、宮澤賢治の思想というのが本当に分かるんだ」と伝えました。私が言いたいのは、何でもかんでも、早く効率よく決めてしまうためだけにネットを使うのではなく、もっといろいろな使い方があっていいのではないかということです。

専門知と集合知の両立を目指す

中山：最後に、本学の学生にメッセージをお願いします。

西垣：今の学生さんのいいところは、あまり物欲にとらわれず、「人に優しく」という人が多いことです。ずっと景気が

悪いからでしょうね。そういう思いを技術に生かして、弱い立場の人のための技術を開発するようなことに取り組んでほしいと思います。

中山：これまでの技術というのは、普通の人がいかに便利に暮らしていくかということがメインでしたからね。本学には、山海嘉之教授（システム情報系）が開発したロボットスーツ「HAL」があります。「HAL」は、装着者の歩行動作をアシストしながら、自立を支援する装着型ロボットで、先日、医療機器として承認されました。そういう方向性ですよ。

西垣：そうですね。社会の弱い人たちも含めて、ボトムアップで社会の進むべき方向を考えていく必要があります。学生さんたちには、社会をこれから自分たちで作っていくという矜持を持ってほしいのです。というのも、若い人たちがマーケティングの主なターゲットになっているところがあるんですよ。ある意味「扱いやすい存在」とみられているところがある。だから、「いや、そう簡単にはいかない。自分で物事を考えているんだ」と自覚して、工学技術やコンピュータを上手に発展させてほしいのです。文系と理系とのあいだの壁なんて、小さい壁ですからね。

中山：今の学問は、蛸壺化している状況にあると言われていますが、若い人たちには、いわゆる総合科学的な思考を持ってほしいということでしょうか。

西垣：自分の専門を極めることも大事で、ある意味では、蛸壺化は仕方ないと思います。でも同時に、「自分は一般的問題についての集合的な知的活動にも関わるんだ」と認識してほしい。それが、専門知を本当に生かしていくことにもつながる。これからは、そういう両面性が求められるのではないのでしょうか。

中山：今日は本当にありがとうございました。



筑波大学と世界遺産

File
#6

麦積山石窟群 (シルクロード：長安―天山回廊の交易路網)

世界の文化遺産を守るための研究対象として、筑波大学は多くの世界遺産とのつながりがあります。文化財の価値や保存活動の一端を、現地でのフィールドワークの様子なども交えて紹介していきます。

2014年、中国とヨーロッパを結ぶ交易路として形成されたシルクロードのうち、中国・カザフスタン・キルギスの3カ国に及ぶ約8700kmが世界遺産に登録されました。その33の構成資産の一つが、中国甘粛省にある麦積山石窟群です。仏教僧の修行のために作られたもので、切り立った山に209もの窟が掘られ、仏像や壁画が納められています。筑波大学世界遺産専攻では、八木春生教授(芸術系)を中心に、中国の麦積山石窟芸術研究所と共同で、これら石窟群の保護と考古学・美術的研究を実施しています。

7000体もの仏像をまつる一大石窟群

西安から西へ270kmほどに位置する麦積山石窟群。高さ



八木 春生 教授



▲世界遺産専攻麦積山石窟研究展

142mの孤山に209の窟が掘られています。膝を突いてようやく一人が入れるぐらいのものから、50人ほど入れるものまで、窟の大きさはさまざまです。それぞれに、数体の仏像がまつられており、壁画が描かれているものもあります。全体では7000体以上の仏像があると言われ、雲岡、龍門、敦煌と並んで中国四大石窟群の一つに数えられています。石窟間をつなぐ細い廊下や急な階段は、山肌に沿って斜面からせり出して設置されているので、崖の上を歩いているように感じられます。これらの窟は、420年代ごろから600年代初めの200年間ほどをかけて、継続的に作られました。仏像はいずれも石を彫ったものではなく、粘土でできた塑像です。それらが現在まで残っているというのはとても貴重なことです。

University of Tsukuba

このような石窟群は、仏教僧の修行の場でした。僧侶たちが奥深い山にこもり、仏像を作ったのです。最初は純粹に修行のためでしたが、次第に、一般の人が修行僧のために、あるいは貴族や皇帝が国家の威容を誇るために出資をして、仏像を作るようになりました。ただ、麦積山では国家のために作られた仏像はごくわずかで、修行的な色彩が非常に強いのが特徴です。

麦積山ヴァーチャルツアー

考古学や仏教美術の中でも、中国の仏像に特化した研究をしている日本の大学はごくわずかです。筑波大学は、長年にわたる中国での調査研究の実績があり、それが現地の麦積山石窟芸術研究所との共同研究につながりました。これにより、石窟内部への立ち入りや写真撮影が自由にできるようになり、飛躍的に研究が進みました。

その典型的な成果が、石窟群を自由な角度から360度の映像で提供するコンテンツの制作です。周囲の風景はもちろんのこと、いくつかの石窟については、内部に入り込んで、仏像や壁画を手取るように見ることができます。このコンテンツは、ホームページ上で公開されています。
(http://www.tianshui.com.cn/mjs/jp_html/frontLab.html)

顔つきや装束を手がかりに

麦積山石窟群に関する中国との共同研究の主な目的は、一つ一つの石窟がどの時代に作られたものかを特定することでした。窟は年代順に並んでいるわけではなく、番号もランダムに振られています。塑像ですから、別の場所に移してX線などを使った科学的分析をすることも困難です。そこで、仏像の表情や着ているもの、あるいは塑像としての技巧を手がかりに、それぞれの窟がいつ頃作られたものなのかを決定します。最初期のものと最後期のものとは、顔つきや目の形、肉体表現が異なります。古いものほど素朴で表情も硬く、時代が進むにつれて、より肉感的になっていきます。袈裟の付け方も時代に

よって異なります。まつる対象として、人間との共通点を持たせないように作っていたのが、表現技法の上達も相まって、だんだんと複雑な細工が施されたり、人間に近いリアルな体の起伏が見られるものになっていきました。それらの特徴は時代ごとに系統づけることができます。

調査研究の結果、北周時代のものだと考えられていた窟が、隋のものだったなど、従来の定説が覆る大きな発見がいくつかありました。当時のことを記した文書などの資料が残っておらず、確認する術が乏しいため、いろいろな方面から議論を重ねて結論を導きます。どの観点を重要視すべきか、中国側と必ずしも見解が合致していない部分もありますが、5年間の共同研究により、ほぼ全ての時代特定が完了しました。

次の研究フェーズ～保存に向けて

現在は観光地として整備されている麦積山ですが、1950年代までは参道が途切れており、人が立ち入るのは困難な場所でした。そのため、過去に何度か大きな地震に見舞われて崩れた部分はあるものの、塑像の割にはとても良い状態で保存されていました。しかしながら、激しい気候変動や、増加する観光客などの影響でダメージが現れています。また、1970～80年代に行われた修復の際に、崩落した山肌をコンクリートで固めてしまったために、山全体の水はけが悪くなり、石窟内のあちこちから水が出てくるようになりました。これが、塑像の破損や壁画の剥落といった深刻なトラブルを招いています。

個々の石窟が作られた時代を特定し、仏像の背景にある物語をひもとく研究は、適切な修復・保存作業を行うためにも欠かせません。時代ごとの材料や技法、仏像に込められた意味に応じて、最適な保存方法を選択する必要があります。これまでの研究成果を踏まえ、次のフェーズでは、具体的な修復や保存に向けた研究を行う予定です。そのための新たな共同研究が間もなくスタートする予定です。



& World Heritage Site



PROFILE

しらい てつや
白井 哲哉 教授(図書館情報メディア系)

1962年 神奈川県生まれ 史学地理学科 卒業
1985年 明治大学文学部 史学専攻 単位取得退学
1992年 明治大学大学院 文学研究科 史学専攻 単位取得退学
1992年 埼玉県教育委員会に学芸員として採用。文化財保護課、文書館、博物館、文学館の職場を歴任
2009年 筑波大学 大学院図書館情報メディア研究科 准教授
2013年より現職



2011年3月11日に卒業式を迎えていた双葉中学校の現状を記録



筑波大学に運び込まれた震災資料



水損被害を受けた19世紀の公文書(常総市)



常総市公文書レスキュー(水損した公文書の運び出し。筑波大学の院生も参加)

だったのでしょうか。これらのメッセージを見ていくと、そういうところにまで考察が広がります。膨大な資料を保管するにはデジタル化も不可欠ですが、実物の持つ情報量は比較になりません。デジタルとアナログ、両方の情報を評価選別しながら、震災の記憶を残していきます。

資料保全の体制づくり

震災後の4年間を通じて、たくさんの経験が蓄積され、地域の研究者や行政機関とのつながりができました。それを暗黙知にとどめず、災害時における資料保全のマネジメント手法として普遍化する研究にも注力しています。官民の連携なくして、資料や公文書を扱うことはできませんし、大勢のボランティアがいても、彼らを統率し、作業の手順を指示し、関係機関との連絡調整をする、そのメカニズムがなければ適切な資料保全もままならないのです。

去る9月に発生した大雨による常総市での洪水の時は、今までの経験と構想が試されました。市役所で保管していた約25000点の公文書の半数近くが水没し、そこには江戸時代から引き継がれてきた貴重な資料も含まれていました。これを案じた地元の歴史家などが連絡を取り合い、筑波大学に依頼が来たのです。文書類をレスキューしつつ、今後も管理し続けていくためのシステムを、行政と

にも検討しています。

誰もが発信できるアーカイブへ

アーカイブされた資料は、閲覧・活用されてはじめて、その価値を発揮します。近年のデジタルアーカイブ技術は、閲覧・活用の可能性を大きく広げています。双葉町の震災資料を公開しているホームページにも、閲覧者が新たな情報を付与し、みんなで活用する機能を加える計画を、同じ知的コミュニティ基盤研究センターの森嶋厚行教授のチームと進めています。

その仕掛けはマイクロタスク型クラウドソーシング。クラウド上で、不特定多数のユーザーがデータ入力などの簡単なタスクを行い、それらを集積して大きな課題を解決するサービスです。これに応用し、写真など個々の震災資料に、閲覧者が自分の言語でタグを付けられるようになります。それによって資料が閲覧者のものにもなり、世界中の閲覧者と共有されていく仕組みです。双方向のコミュニケーションを伴う、新しいタイプのアーカイブの実現はもうすぐです。

職と住が分離された現代社会では、何代にもわたって同じ土地に住み続けることは少なくなり、故郷を離れて暮らす人も珍しくありません。そんな中で、地域の歴史としての震災資料をどのような形で後世に伝えていくか、その研究はアーカイブズ学の重要な使命です。

聴

白井哲哉 教授（図書館情報メディア系 知的コミュニティ基盤研究センター）

古文書・公文書から災害の記録まで グローバルスタンダードで地域の歴史をつなぐ

地域の歴史を伝える古文書などのさまざまな資料が、その土地の役場や旧家に保存されています。それらがどこで、どのように保管されてきたか、という情報は、資料そのものの意味付けに大きく関わります。それは、美術品のような文化財や古い時代の文書だけでなく、新たに作られたり集められたりした資料であっても同じです。残された資料とその状態を、実物とデジタルデータの両方の形態で記録し、保存・活用していくためのスタンダードを構築しています。

■アーカイブズ学と震災資料

東日本大震災とその後の原発事故によって最も大きな被害を受けた地域の一つに福島県双葉町があります。全町民が今も避難生活を強いられています。一方で、震災の記録を全て残すという方針がいち早く打ち出されました。その鍵となるのが「アーカイブズ学」。この分野で日本で数少ない研究機関である筑波大学は、双葉町と共同で、復興に向けて震災資料の保全に取り組んできました。その成果が、ホームページ「福島県双葉町の東日本大震災関係資料を将来へ残す」として公開されています。

資料の保全は単なる分類・整理ではありません。文化財の保存とも異なり、アーカイブズ学では、その資料がも

ととあった場所や状態、一緒に置かれていたもの、移動経路などの情報、つまり資料の「本籍」が重要だと考えます。

それによって資料の意味や役割が変わるからです。こういった属性情報と併せることで、同じものがたくさんあっても、ただ一つのものとして理解できるのです。

日本では、近代の町村制度改革の過程で、それ以前の公文書をあえてほとんど引き継がなかったために、地域の記録が散逸してしまいました。20世紀後半に地方史の編纂事業が進む中で、欧米のアーカイブズ学の理論が取り入れられました。グローバルスタンダードと日本独自の文書管理スタイルを融合していくことが課題です。

■「絆」の姿を求めて

2013年、さいたま市に避難していた双葉町役場がいわき市に移転する際に、保全すべき震災資料が筑波大学に運び込まれました。その量は、段ボール箱でおよそ170個、現地の写真は数万点にも及びます。震災発生から現在に至る避難経過、街並みや避難所の様子、国内外から寄せられた救援や激励の物資などがあり、その形態も、文書や写真から寄せ書き・千羽鶴までさまざまです。避難所で配られていた弁当の注文書や、ボランティア活動の記録なども入っていました。

中でも注目すべきは千羽鶴。70件もありました。いろいろな紙が使われていたり、一羽ずつメッセージが書き込まれているものもあり、送り主の思いがうかが

われます。また、震災発生

直後に海外の子供たちから届いた手紙には、すでに原発事故のことが書かれており、国内では



情報が錯綜し

被害の全容を掴めずにいた中で、高い関心を持って被災状況が伝えられていたことが推察されます。資料を丹念に観察し、細部に示された過去の痕跡を捉える、そんな眼力と想像力も、アーカイブズ学には大切な素養です。

当時、「絆」という言葉が盛んに使われました。しかしその具体像はどんなもの

//////// TSUKUBA //////////

OBOG

小学生の頃から本学の柔道場に足を運び、
高校時代には筑波大生と練習していたという福見友子さん。

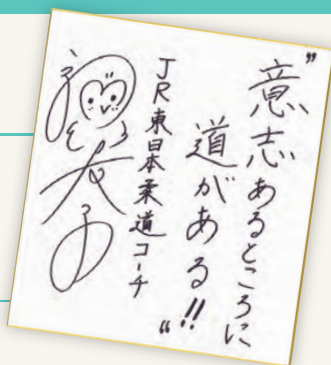
今回は、生え抜きの筑波っ子、
元柔道世界女王の福見さんに、お話を伺いました。

PROFILE

福見 友子 氏

元柔道世界女王
JR東日本女子柔道部コーチ

1985年	茨城県土浦市生まれ
2004年	筑波大学体育専門学群入学
2009年	ロッテルダム世界柔道選手権柔道女子48キログ級優勝
2008年	筑波大学人間総合科学研究科体育学専攻 了徳寺学園職
2010年	筑波大学人間総合科学研究科体育学専攻 博士前期修了
2012年	ロンドンオリンピック 5位
2013年	現役引退
2014年	イギリス ラフバラ大学留学
2015年	10月 JR東日本女子柔道部コーチ就任



— 土浦市のご出身で、土浦日本大学高等学校から本学に入学された福見さんにとって、筑波大学はどのような存在でしたか？

子どもの頃から筑波大学の柔道場でやっている全日本の合宿を見学に行ったりしていましたし、高校時代には筑波大生が練習に来てくれたり、大学に出稽古に行かせていただいたりしていたので、とても身近な存在でした。筑波大学の強い選手と一緒に練習できることがすごく嬉しく、自分も入りたいと思うっていました。いい目標があったおかげで、勉強もスポーツも頑張れたのかな、と思います。

— 実際に入学してどうでしたか？

それぞれ自分のやり方でトレーニングするというのが筑波大学のスタイルなので、最初はどちらでもいいか分からなくて、いろいろ失敗もしましたが、先輩方や先生方にアドバイスをもらいながら「自分流」を作っていました。練習や勉強はもちろん、普段の生活も全て「目標を達成するため何をすべき

か」をひたすら考えていましたね。筑波大学には各分野のトップの先生がそろっていて、自分が強くなるためのものが、求めれば求めるだけありました。「知ることができる」ということが本当に楽しくて、「もっと勉強したい」というも思っていました。

— 自分で自分のトレーニングを管理するというのは、意思の強さが求められますね。

そこが自分を一番鍛えたところだと思います。幸いにも、チームメイトや同級生など、周りに、高い目標を目指している同志がたくさんいたので、「自分も負けていられない」というのがありました。例えば、練習が休みの日にトレーニングルームに行くと、みんなも来ている。「ああ、やっぱりそうだよな」と思うわけです。

— 柔道以外の学生生活で印象に残っていることはありますか？

授業の中では、実技が楽しかったですね。ダンスとか…。柔道ばかりやっ

ていたので、知らない自分を知ったような感じで新鮮でした。「ダンスのリズム感やバランス力が柔道に生かせる」とか、何をやっても結局は柔道につなげて考えちゃうんですけど(笑)。

— 大学3年生の時に、全日本選抜柔道体重別選手権大会48kg級の決勝で谷亮子選手を破り、見事優勝されました。にもかかわらず、世界柔道選手権の出場権を得ることはなく、北京オリンピック出場のチャンスを失って、社会的にも大きな波紋を呼びました。

日本チャンピオンになった時というのは、その大会に向けて自分で計画を立て、練習をやりこんでいて、目標を達成した瞬間だったんです。だから



世界柔道2010東京

すごい達成感がありました。その後すぐに代表発表があったので、優勝した達成感と次のチャンスを与えてもらえなかった悔しさで、複雑な気持ちでした。でも、それまでの私は、日本チャンピオンだけを目指してやっていて、その先の世界までの頭はなかったんですよね。だから、「自分には世界に挑戦する準備がまだできていなかった。次は、世界で勝つために準備しよう」と気持ちを切り替えて、再スタートしました。世界で勝つためには、自分に足りない部分がいっぱいありましたから。

— 自分自身でそのように切り替えることができたのですか？

周りの方々の意見を聞いたり、同級生に支えてもらったりしましたよ。それまでもいろいろなことがありましたが、その度に「なにくそ」と踏ん張ったことが自分を強くしてきたという思いも自分を支えました。私は、悔しさとか負けをバネにして強くなるタイプなので…。

— それから2年後に、世界選手権初出場で世界女王となったのですね。ロンドン五輪を振り返っていかがですか？

初代表の世界選手権は、どんなものかも分からないまま出て、自分のやり方を貫いて金メダルが取れたので、自分のやってきたことは間違いじゃなかったと思いました。ロンドンオリンピック出場は、9割方無理という状況の中、最後まで諦めずにやり切って、ギリギリで掴み取ったものでした。オリンピックには、世界選手権とはまた違う、独特の雰囲気があります。それを実際に感じられたということは、自分にとって、すごく大きな糧になりました。結果はもちろん悔しいですけど、自分の集大成だという気持ちで、やり残しのないように準備を重ねて臨んだ結果なので、素直に受け止められました。そして、「自分が経験してきたことを伝えられたらいいな」という思いで、指導者になることを決意しました。

— ロンドン五輪後、すぐに、ロシア・ナショナルチームの指導に行かれました。そして昨年は、本学の職員として、ラフバラ大学に1年間行かれました。

選手の頃から、いつか海外に行きたいと思っていました。ロシア・ナショナルチームの指導では、10日間の合宿に5回参加したんです。指導者になった時のために、世界のスタイルを知りたいという気持ちがあって、お引き受けしました。ロンドンオリンピックで金メダルを3つ取った、乗りに乗っているチームに参加できるということで、すごくワクワクしましたね。コーチと選手のコミュニケーションの取り方や距離感から、技術的なテクニック、試合に臨む考え方で、全然日本と違いました。どちらがいいということではなく、視野が広がった貴重な体験でした。昨年1年間、大学間の交流で行ったラフバラ大学では、強化クラブではない柔道部にて男子学生を相手に柔道を指導しました。また、イギリス柔道連盟の方々と一緒に各地区の子どもたちや指導者の方々に日本の柔道の取り組み等を披露しました。柔道だけに留まらず、ライフスタイルの中に築かれているスポーツのあり方や価値、文化や言語の違い等についても多くの刺激を受けることができました。

— この10月から、JF東日本女子柔道部のコーチに就任されましたが、どのような指導を心掛けておられますか？

2020年東京オリンピックに選手を輩出することを目指して、約10人の部員と日々稽古を重ねています。自分が経験してきたことや、筑波大学で学んだことを伝えていけたらいいなと思っています。日頃、選手たちに伝えていることは、「ただチャンピオンになるための柔道ではない」ということです。柔道の創始者、嘉納治五郎先生は、社会に貢献するという目的で柔道を作ったので、選手たちには、そういうことを感じてほしい。そして、柔道が全てというのではなく、自ら目的を持って自分の人生を全うしてもらいたいと考えています。

— 最後に、本学と本学の学生にメッセージをお願いします。

筑波大学は、広い分野の一流の先生に出会えますし、何かを突き詰めるための、ものすごくいい環境があるので、学生さんたちには、それを存分に生かして、筑波大学から世界に飛び立ってほしいなと思っています。



名物先生登場!

本学には11の附属学校があります。それぞれの分野でわが国の教育をリードしており、全国でも有名な先生たちが大勢います。各学校で活躍する名物先生を紹介いたします。

もうりくにえ 藻利 國恵 教諭

筑波大学附属聴覚特別支援学校

1955年、愛媛県生まれ。新潟大学教育学部卒業後、愛媛県松山市内の小学校教諭となる。1982年より、筑波大学附属聴覚特別支援学校に赴任し、歯科技工科に21年間勤める。その間、担任、一般科目(国語・社会)、発音・発語指導等を担当。現在は、中学部で社会科指導とバレーボール部顧問を務めている。



関東地方と近郊農業について学ぶ中学2年生の地理の授業。そこには手で触れる教材がたくさん登場します。関東ローマ層の赤土や、地元の農家が届けてくれた採れたての野菜など、自分の眼で見て、匂いを嗅ぎ、手で触る、その感覚を通じて、自分たちが生活する地域の特徴を理解していきます。身近な社会のことを丁寧に掘り下げ、具体的にイメージできるようにすると、それが他の地域や世界との関連付けへの足がかりとなり、視野が広がります。

授業での板書は、予め用意しておいた地図やカードを貼るなど、なるべく時

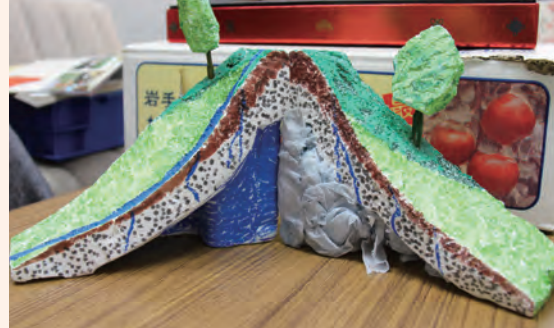
間をかけない工夫をしています。空書といって、文字や形を空間に描いて示したりもします。できるだけ生徒と顔を合わせ、対話を途切れさせないようにするためです。耳から無意識に入ってくる情報が少ない生徒たちの、雑学知識や語彙を増やす一助になるようにと、雑談も意識的に盛り込みます。生徒たちも、全員が積極的に発言し、互いに意見を交わします。授業の最後にまとめてノートをとる時間を設けているので、五感をフル活用して授業に集中することができます。

藻利先生の授業には、たくさんの人が関わっています。今日の授業では、地元の農家へのインタビューや、生徒の保護者へのアンケートの結果が紹介されました。野菜作りの苦労や喜び、野菜を買うときに気を付けていることなど、地域に根を張って生きる人々の姿や思いが伝わってきます。始めのうちは、土に触ることをためらっていたり、野菜は苦手だと言って避けていた生徒も、そういった話を聞くにつれ、恐る恐

る手を伸ばすようになります。テーマによっては、遠方に住む親戚なども進んで協力してくれます。教室に姿はありませんが、学びを支える心強い応援団の存在。生徒にとっては、言葉以上にインパクトのある、大切な教材なのです。

もう一つ、欠かせない教材がジオラマです。電子黒板などが普及して、授業にもいろいろな写真や動画を取り入れることができるようになりました。しかし平面的な情報で伝わることには限りがあります。それを補うのがジオラマ。藻利先生は、段ボールや発泡スチロール、紙粘土にティッシュペーパーなど、どこにでも





ある材料を使って、いとも簡単にジオラマを作り上げます。アルプスの山々、故郷のみかん畑、林間学校で訪ねる甲府盆地の扇状地・・・地図と写真とジオラマを組み合わせると、地形が形成される仕組みや土地利用の状況を立体的に把握することができます。また、山の向こう側にも別の町や国があること、世界がつながっていることを実感します。グラフの読み解き方、土壌の改良、作物の栽培と流通、農家の高齢化や耕作放棄地の問題、地域の歴史や文化などなど、地理の授業には他の教科の要素もたくさん含まれています。それらの教科とも緊密に連携しながら授業を組み立てます。こうして、ある地域のことを複眼的に捉えることができます、おのずと気づきが生まれ、理解が進んで記憶が定着するはずです。

知識があっても、自分が見たこともない場所のことを話すのは難しいものです。さまざまな土地へ行き、歩いて、その地域のことを取材する。その体験を伝えることが重要だと藻利先生は語ります。その原点は、学生時代に師事した地理科の先生の教えにあります。とにかく自分で歩いて巡検しなければ分からない、と、

佐渡島や寒河江を始め全国を巡り、何日もかけて地形や水利を観察し、人々の生活やその土地の歴史に触れました。それはとても楽しい経験でした。今も各地へ取材に出かけます。現地へ行ってみると、教科書には載っていない発見や出会い、感動があります。いつもカメラを持ち歩き、教材になりそうな地形や風景を見つけると、すかさずシャッターを切ります。同じ写真でも、教科書にあるものと、先生自らが撮影したものとは、生徒の受け止め方も違います。授業は、生徒たちが藻利先生の旅を追体験する時間でもあります。

高等部へ進学すると大学受験が控えています。そう考えると、本当の意味での勉強ができるのは中学まで。地理という教科の中で、できるだけ多様な体験をし、いろいろな土地や国で働き、暮らす人たちの生き様や力強さを知ってほしいと願っています。それが、これから社会へ巣立っていく生徒たちの心の糧にもなるからです。ジオラマや模型など工夫を凝らした教材を作り、取材に赴き、保護者や地元の人々とのネットワークを大切にする。生徒のために、生徒とともに過ご

す教師という仕事は、藻利先生の心からのよろこびです。

教材として使った、大きな葉のついたブロッコリーや土の香りの残る大根などの野菜は、授業の後、生徒たちの提案で、分け合って自宅へ持ち帰ることになりました。実はこの野菜を提供してくれた農家は、9年前にもインタビューに応じてくれています。当時の様子と比較してみると、農家や農業の在り方に大きな変化が生じていることが分かります。生徒たちは皆、それぞれの食卓を囲みながら、今日学んだことを振り返り、人々の思いを受け止めたことでしょう。



伊藤 僚幸 副校長

藻利國恵先生の出身地は、みかんの生産で有名な愛媛県松山市。温暖な気候で育ったことが影響してか、とても穏やかなお人柄です。

藻利先生は、同僚からの信頼が厚いことで有名です。特に学級経営や生徒指導に悩んでいる若い先生へのアドバイスは的確です。心温かい言葉をかけてもらえることから、子どもたちや保護者はもちろん、卒業生からも相談を持ちかけられます。一つ一つの相談事に対し、丁寧に対応している藻利先生の真摯な姿勢には頭が下がります。

また、藻利先生は、博学連携を研究テーマとして掲げ実践を続けてこられました。考古学を研究している大学の先生や博物館の学芸員の方々と共に、地域学習（奈良・平安時代の市川市）の研究に取り組み、その成果を学会や研究会で発表してこられました。今後益々のご活躍を期待しています。



横江 祐二 さん

神佳 弘 さん

佐藤賢吾 さん

授業で制作したラジオCMが 日本最大級の広告賞を受賞！

神佳弘さん(人間総合科学研究科 芸術専攻 博士前期2年)、横江祐二さん(人間学群教育学類4年)、佐藤賢吾さん(人間学群心理学類4年)が制作し、民放FM局で大学のラジオCMとして放送した「筑波大学ラジオCM トイレ編」が、一般社団法人日本シーエム放送連盟(ACC)によるACC CM FESTIVALにおいて、ラジオCM部門アンダー29を受賞した。この賞は日本最大級の広告賞として広く認知されているもので、プロ以外の受賞者は彼らだけという大快挙だ。

受賞したラジオCMは、自由科目「IMAGINE THE FUTURE.未来構想大学講座一創造学群表現学類一」で制作したもの。本学の卒業生で、第一線で活躍中のクリエイターによるレクチャーを2日間受けた後、チームごとに課題に取り組み、発表会を行う講座で、制作したポスターやラジオCMは、毎年、大学のPRに使用されている。

課題にラジオCM制作を選んだのは彼らのみ。発表会までの1カ月間、各人が考えた案を元に、3人で話し合いながらシナリオにする行程を繰り返した。時には徹夜もし、ボツになった作品は30を越す。なんと、「トイレ編」の案を神さんが思いついたのは発表当日のトイレの中。横江さんが、発表会の最中に必死に編集作業をした。

発表会からCM収録までの1カ月間も、角田武さん(コピーライター・電通)の指導を受けながらシナリオを磨き続けた。電通の本社に行って指導してもらったこともあるという。

作品が受賞したことについて「学生らしさが評価されたのでは」と神さん。「普通CMはきれいに終わるのに、筑波大学という言葉とトイレを流す音をかぶせて締めくくった、アウトロー的なところが面白かったかな」と佐藤さん。3人は、CMを制作してから半年以上経っての受賞に、夜を徹して“知恵を集めた”日々を懐かしんでいた。

躍動する！

筑波大学ラジオCM「トイレ編」

N(A): ふんっ、ヴゥー、ふう。
SE: カラン(トイレペーパーが数cmでなくなる音)
N(A): うわあ、紙切れてる。だれかー、紙ありませんかー！
SE: コンコン(扉をノックする音)
N(A): たすかったー
N(B): 理工学群の者ですけど・・・予備の紙がないなら、課題で描いた図面、使います？
N(A): 提出してください！
N(C): 看護実習で使ったオブラート余ってるけど・・・
N(A): 溶けちゃうよ！？
N(D): 国際学群の俺のバスポートを・・・
N(A): 入国審査通れなくなるぞ！
N(E): 教育実習のお別れに子どもから貰った手紙を・・・
N(A): それはチョット・・・
N(F): 情報学群の俺に言わせれば、時代は紙じゃなくてタブレットだぜ！
N(A): そういう話じゃない！
N(G): インドからノ留学生デス。
N(A): こんにちは・・・
N(G): 日本語ウジマシタ！
N(A): それだけ！？
N(H): 芸術専門学群ですけど、画用紙なら・・・
N(A): 女の子！？
N(H): 女子トイレ混んで・・・
SE: チャリンチャリン(自転車のベル)
N(I): すみません、通りませう。
全員: ここを！？
N(I): 体育専門学群の近道なんだ。
俺の汗を拭いたタオルをよっ！
N(A): みんな・・・ありがとう！！
SE: ジャー(水の流れる音)
全員: 知恵が集まる 個性が集まる 筑波大学

※ 本学HPより上記ラジオCMの音声を再生することができます。
(<http://www.tsukuba.ac.jp/about/video/clip.html>)

競技成績・各種発表・コンテスト結果

■ バドミントン部

第66回全日本学生バドミントン選手権大会

[女子団体]優勝(2連覇 今シーズン主要大会完全制覇)
[個人戦 女子ダブルス]優勝 加藤美幸(体専2年) 柏原みき(体専2年)

■ 柔道部

平成27年度全日本学生体重別選手権

[女子52kg級]優勝 内尾真子(体専2年)
[女子63kg級]準優勝 津金恵(体専2年)
[男子100kg超級]準優勝 黒岩貴信(体専4年)

平成27年度全日本柔道体重別選手権大会

[女子63kg級]優勝 能智亜衣美(体専2年)
[男子90kg級]準優勝 小林悠輔(体専4年)

柔道グランドスラム東京

[男子81kg級]3位 永瀬貴規(体専4年)

■ バスケットボール部

第67回全日本大学バスケットボール選手権大会

男子優勝(2年連続3回目) 女子優勝(6年ぶり10回目) アベック優勝は国立大学初
[最優秀選手賞]馬場雄大(体専2年)、藤岡麻菜美(体専4年)
[優秀選手賞]生原秀将(体専2年)、杉浦佑成(体専2年)、谷村里佳(体専4年)、松本愛美(体専2年)
[リバウンド王]谷村里佳 [アシスト王]生原秀将、藤岡麻菜美

■ 剣道部

第63回全日本学生剣道優勝大会

[男子団体]優勝(2年ぶり12回目)

■ 漕艇部

全日本新人選手権大会

[女子ダブルスカル]優勝 小原有賀(体専2年)、棚橋秀美(体専1年)

「インカレ」「王座」優勝を狙う 仲良し最強一年生



森崎 可南子 選手
[硬式庭球部]

筑波大生

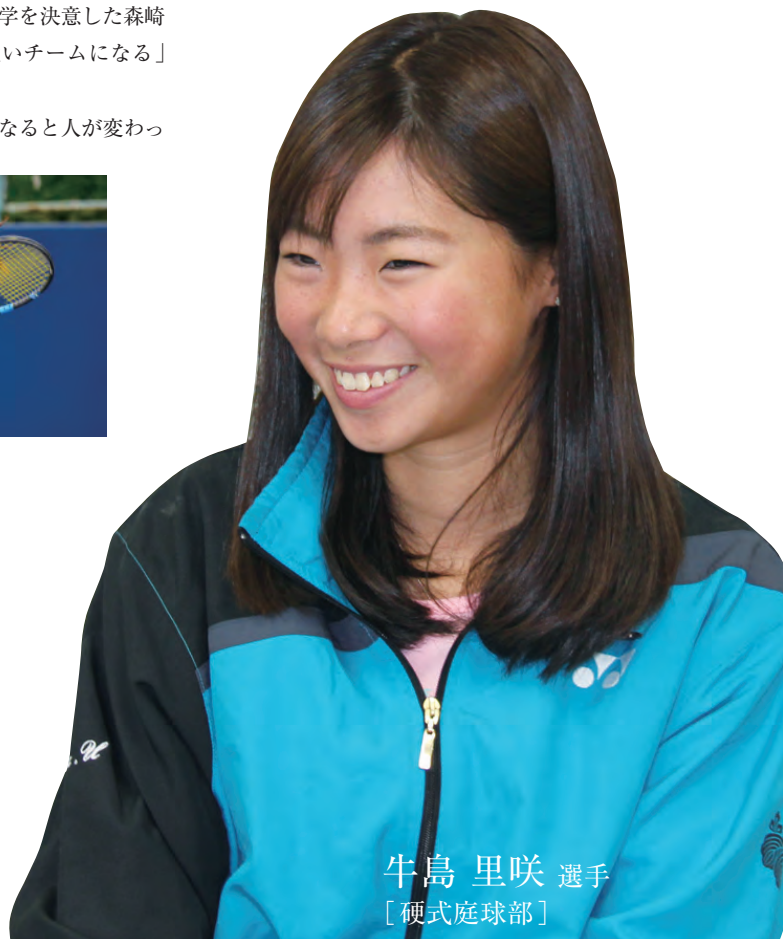
第70回国民体育大会(国体)テニス競技成年女子に茨城県代表として出場し、3位に入賞した体育専門学群1年生の牛島里咲選手と森崎可南子選手。牛島選手は、6月に開催された有明国際女子テニストーナメントで、プロ選手を次々に破っての優勝という快挙も成し遂げた。「まさか優勝するとは思っていなかった。格上の選手ばかりだったので、思い切り、伸び伸びとできたのがよかった」と振り返る。

同学年で、長い間日本のトップを競ってきた牛島選手と森崎選手は、小学生の頃からお互いを知っていたという。「国体で初めてダブルスのペアを組んだ。念願が叶って嬉しかったし、すごく楽しかった」と声を揃える二人。というのも、実は、先に筑波大学進学を決意した森崎選手が、「一緒に入ったら強いチームになる」と、牛島選手を誘ったのだ。

気の合う二人だが、試合になると人が変わっ

たように勝ち気になるという牛島選手に対し、森崎選手は、淡々とプレイするタイプ。「私は、負けず嫌いなので、負けたくない、の一心でやっています。普通ですよ?(笑)」という牛島選手の言葉に、「私が普通じゃないんです(笑)。負けたくないという気持ちが出てくることもあるけど、すぐにひっこんじゃう。『お腹すいたなあ』とか、『飛行機雲だあ』とか変なことを考えたりしています(笑)」と森崎選手。

一緒に勝つために入学した二人だから、狙うは、インカレと全日本大学対抗テニス王座決定試合での優勝。2年後に開催されるユニバーシアード出場も大きな目標だ。



牛島 里咲 選手
[硬式庭球部]

■ 水泳部

FINA競泳ワールドカップ2015中東シリーズ

ドーハ大会

[男子200m背泳ぎ]銀メダル [100m背泳ぎ]銅メダル 金子雅紀(院2年)

トバイ大会

[男子200m背泳ぎ]銀メダル [男子50m、100m背泳ぎ]銅メダル 金子雅紀

■ 陸上競技部

第31回日本ジュニア陸上競技選手権大会

[男子走高跳]準優勝 平松祐司(体専1年)

[女子ハンマー投]準優勝 江原宇宙(体専1年)

■ 硬式野球部

2015年秋季首都大学野球連盟リーグ戦

3位

[首位打者]水野将吾(体専4年) [ベストナイン・三塁手]丹伊田翔(体専4年)

[ベストナイン・遊撃手]板崎直人(体専4年) [ベストナイン・外野手]水野将吾、汐月祐太郎(社会学類3年)

■ 体操部

第21回全日本ラート選手権大会

[男子個人総合][直転][跳躍]2位 [斜転]3位 田村元延(院2年)

[女子個人総合][跳躍]優勝 [直転][斜転]2位 松浦佑希(院1年)

[女子個人総合]2位 [直転]優勝 [跳躍]2位 [斜転]3位 堀口文(院2年)

■ 女子バレーボール部

2015年秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦

優勝(2季連続23回目)

[最優秀選手賞]芳賀舞波(体専4年) [セッター賞]塚田しおり(体専3年)

[リベロ賞]和田実莉(体専2年) [会長特別賞]帯川きよら(体専4年)

■ 男子バレーボール部

第68回全日本バレーボール男子大学選手権

準優勝

[敢闘選手賞][レシーブ賞]宮下拓也(体専4年)



タガラノン湖
GarryHodson-Garry@OpenSkyPhotographics.com



シドニー・オペラハウス



シドニー・ハーバーブリッジ

しているの、日陰なら真夏でも涼しく過ごせますよ。

毎年楽しみにしているのが春（9月上旬〜10月上旬）に開催されるフロリアード。毎年違うテーマを色とりどりの花で表現する花の祭典です。観覧車から、花で彩られた芸術的な景色を眺めることができます。公園がライトアップされ、さまざまなショーが開催されるナイトフェストもあって、世界中からたくさんの人が集まります。

10月には「キャンベラ奈良キャンドルフェスティバル」も開催されます。キャンベラは奈良市と姉妹都市なんですよ。実家もキャンベラにあり、大学までバスで40分です。

犬の散歩で見かけるカンガルー！

家の周りは自然がいっぱい。庭の餌台には、ガラーやコカトゥーなど、たくさん野鳥が集まっています。

怖い鳥もいます。黒白のマグパイという鳥は、繁殖期の春になると、巣の近くを走る人や自転車を通る人を襲ってくるので、あちこちに「マグパイに用心」という看板が立っています。たまに、棒が飛び出ているヘルメット（帽子）をしている人がいますが、それはマグパイ防止のためです。「ぼうれい」だけに…（笑）。

家の前は空き地で、その先には丘が広がっています。丘の方まで犬の散歩に行くと、ロゼラという美しい野鳥やカンガルーを見かけます。カンガルーはたくさんいますよ。食肉としてもスーパーなどで売られています。うちはあまり食べませんが…。

そういえば、いつか母がワニの肉を買ってきたことがありました。カンガルーと違って、ワニの肉が店頭で並ぶのは珍しいことです。

家から車で20〜30分のところに、よく遊びに行くタガラノン湖があります。湖のほとりには大用の公園で愛犬を遊ばせたり、近くのショッピングセンターで買い物したり映画を見たりしました。

シドニーまでは、家から車で3時間くらいです。友人とシドニー湾クルーズをして、オペラハウスやハーバーブリッジを眺めたこともあります。世界遺産にも登録されているオペラハウスの格好よさに、とても感動しました。

フレンドリーなオーストラリア

「オーストラリア人は明るくて陽気」というイメージがあるようですが、だいたいそんな感じがすね。もちろん、いろんな人がいますけど…。

人間関係がとてフレンドリーで、高校に入った時には、先生に、「高校生になったらもう大人だから、下の名前を呼んで」と言われました。喫茶店でバイトしていた時も、接客指導などはなく、お客さんに「やあ、久しぶり」って気軽に声を掛ける感じ。基本、人間関係は全部ゆるいかな。そういう国から来たので、今所属している筑波大学の剣道同好会は上下関係が厳しくて、なかなかちゃんとできません。いつも「外国人だから」と特別扱いをしてもらっています（笑）。



ロゼラ

コカトゥー

GarryHodson-opensky@hodson.com.au



実家の前の道

GarryHodson-Garry@OpenSkyPhotographics.com

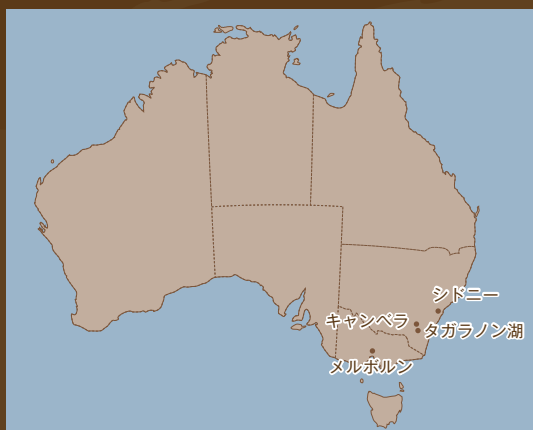




キャンベラを一望。旧国会議事堂とその前に広がる人工湖
バーリー・グリフィン湖 GarryHodson-opensky@hodson.com.au

Homeland

本学には、100を超える国から、約3千人の留学生が訪れています。
このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、
食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。



オーストラリア
連邦



マナ ホドソン

Mana Hodson さん



所属：人文・文化学群日本語・日本文化学類 交換留学生
趣味：読書・音楽・ゲーム・犬の散歩

私はキャンベラにあるオーストラリア国立大学の3年生で、7カ月間の交換留学生として日本にきています。オーストラリア唯一の国立大学で、「卒業するのがとても難しい」と言われていますが、私にはまだよくわかりません(笑)。

筑波大学に留学することが決まった時、「つくばはキャンベラに似ているよ」と言われました。街があつて、ちよつと離れると何にもなくて、また街があつて、またすぐに何もなくなつて…(笑)。こちらに来てみて、大学の広さや雰囲気も似ているなと思いました。筑波大学の方が、緑が多い感じがしますけど。あと自転車も(笑)。

私は自宅からバス通学でしたが、学内のあちこちに駐車場があつて、多くの学生は、学内移動に自分の車を使います。

州によつて違いますが、キャンベラでは16歳で車の免許が取れるんですよ。高校生の頃から車で通学する人もいて、授業の空き時間に友達と車でちよつと出かけたりしています。

花の祭典 フロリアード

キャンベラは、二大都市、シドニーとメルボルンによる首都争いの妥協案として首都に決まり、計画的に造られた街です。街の設計者の名前を付けた人工湖バーリー・グリフィン湖を中心に、旧国会議事堂を頂点とした三角形の内側に街が造られています。

四季は日本と反対で、7～8月が冬、12～2月が夏。オーストラリア北部はとても暑く、夏には40度を越えますが、キャンベラはそれほど暑くなりません。しかも乾燥



オーストラリア国立大学



GarryHodson-opensky@hodson.com.au



フロリアード

TOPICS

エンパワースタジオ一般公開

エンパワーメント情報学プログラムは、平成27年5月に竣工したエンパワースタジオを舞台に、人の機能を補完・協調・拡張する工学システムを「作品」という形で展示し、実演を通じて一般社会の人々から評価を得た上で、それを次の研究につなげるステップ・バイ・ステップの研究教育プログラムです。

11月13日には「エンパワースタジオ公開シンポジウム」が開催され、エンパワースタジオの内部が初めて公開されました。圧巻は、全周壁面と床面に立体映像を投影し、天井に設置されたワイヤー駆動モーションベースです。なんと、立体映像空間中の飛行が可能な設備なのです。また、グランドギャラリーでは、巨大なビッグロボを体験できます。ビッグロボは、人が身長5mの巨人になった場合の身体感覚を体験するための装置です。その他、ショールーム型実験室でも研究開発中の装置のデモンストレーションが行われました。

体験した来場者は、「3Dメガネをかけると、立体的に映し出されるだけでなく、視点によって周囲の風景が変わるので、お城の内部を本当に飛んでいるかのような感覚があった（空中飛行）」「まさに、巨人になった感じ。自分がものすごく強くなった感覚があって、気持ちよかった（ビッグロボ）」などと興奮した面持ちで感想を語りました。



ビッグロボ



空中飛行

第41回学園祭「雙峰（そうほう）祭」

11月6日から8日の3日間、第41回筑波大学学園祭「雙峰祭」を開催しました。「雙峰祭」は、学生組織である学園祭実行委員会が中心となって、準備から運営まで行っています。

今年の雙峰祭のテーマは「筑波浪漫」。雙峰祭の長い歴史に思いをはせ、来場者全員で夢や希望の詰まった「新しい雙峰祭」を作りあげる、そんな思いを込めたテーマを掲げました。

1日目、2日目は好天に恵まれ、多くの方々にご来場いただき、学生の個性を発揮する企画や本学の学術性を発信する企画など、多種多様な企画が、本学ならではの広大なキャンパスに軒を連ねました。3日目はあいにくの雨模様のため、屋外の調理企画などが一部中止となりましたが、屋内企画や後夜祭ステージは大変盛り上がり、3日間の雙峰祭を締めくくりました。



まちあるき「ちょっと寄り道、湯島聖堂まで」

東京キャンパス文京校舎から、本学の起源でもある湯島聖堂までを巡るまちあるきツアー「ちょっと寄り道、湯島聖堂まで」が、10月25日に開催されました。これは、芸術系の研究成果発表展覧会「よみがえる孔子像と学問の礎」(10月25日～11月3日、於東京キャンパス)に併せて企画されたものです。メイン展示の、湯島聖堂大成殿本尊孔子像の彩色復元などを鑑賞した後、その原型のブロンズ像がまつられている湯島聖堂を目指す、



▲湯島聖堂のブロンズ像



▲湯島聖堂大成殿本尊孔子像の彩色復元について解説する守屋正彦教授(芸術系)



約3.5kmの特別コースです。

11名が参加し、文京区観光ガイドの方々の解説を聞きながら、講道館、坪内逍遙・宮沢賢治・樋口一葉などの文豪たちの住居跡、湯島天満宮などを訪ね、およそ3時間をかけて、ゴールの湯島聖堂に到着しました。起伏も多く少しハードな道のりでしたが、天候にも恵まれ、本学ゆかりの文化や歴史にも触れる盛りだくさんのまちあるきとなりました。

第39回秋季スポーツ・デー

11月14日、15日に、第39回 秋季スポーツ・デーを開催しました。スポーツ・デーは、学生組織スポーツ・デー学生委員会が企画から準備・運営までを行い、春季と秋季の年2回、各2日間の日程で開催しているものです。毎年、延べ人数1万人以上の学生・教職員がスポーツを楽しむ、本学ならではの大学行事です。

今回は、あいにくの雨のため、開会式を中央体育館で行いました。ソフトテニスと、サッカーやキックベースなどの1部の試合が中止となりましたが、屋内競技を中心に、多くの参加者がスポーツを楽しみました。

バドミントン、バレーボールなどの正式種目のトーナメントだけでなく、ストラックアウトやミニホッケー、チャンバラなどが楽しめる学生委員会企画や、公開試合や体験教室などのサークル企画も大いに盛り上がりました。また、2日目には学内に循環する車道にコースを設けて駅伝競技を行いました。普段は走ることでできないコースを、参加者たちは伸び伸びと疾走していました。



TOPICS

能智亜衣美選手が 平成27年講道館杯 全日本柔道体重別 選手権大会優勝！

柔道女子63^{kg}級能智亜衣美選手（体育専門学群2年）が、11月8日に行われた平成27年講道館杯全日本柔道体重別選手権大会で初優勝を果たしました。準決勝戦は袈裟固で一本勝ち。決勝戦では、9月の全日本ジュニア体重別選手権決勝で敗れた好敵手、鍋倉那美選手を指導1で破り、見事雪辱を果たしました。



写真：長田洋平／アフロスポーツ

睡眠の謎に迫る成果を発表！



林 悠 助教

世界唯一の睡眠科学の総合研究所である本学国際統合睡眠医科学研究機構（WPI-IIS）の林悠助教は、理化学研究所との共同研究で、レム睡眠の機能に迫る発見をし、サイエンス誌に発表しました。

私たちの眠りは、レム睡眠とノンレム睡眠という二つのフェーズの繰り返しで構成されています。レムというのは、スヤスヤと安らかに眠っているように見えるのに、まぶたの下で眼球だけが急速に動いている状態Rapid Eye Movement (REM) のことです。アメリカの研究者が1953年に発見しました。その後、この状態の人は夢を見ている場合が多いことと、眠りはレム状態とそうではないノンレム状態の繰り返しであることも分かりました。レム睡眠があるの

は、哺乳類と鳥類だけとされています。レム睡眠中の脳波は覚醒時と同じで細かいさざ波、ノンレム睡眠時は振幅の大きい特徴的な波となります。しかし、それぞれの状態が果たしている役割については分かっていませんでした。

林助教たちは、レム睡眠とノンレム睡眠の切り替えをつかさどる脳の部位を発見し、その切り替え操作を可能にしたのです。レム睡眠を経験できないマウスを開発し調べたところ、ノンレム睡眠中に特徴的なデルタ波が出現しなくなることが分かりました。デルタ波は、脳の神経細胞同士の活動が同調し、学習や記憶形成が促されている状態だと考えられています。幼児ではこのデルタ波が顕著なことから、脳の発達にも重要だと考えられています。



祝・インカレ優勝！ バドミントン部女子は主要大会制覇！ バスケットボール部は 国立大初のアベック優勝！

秩父宮・秩父宮妃杯争奪第66回全日本学生バドミントン選手権大会で、バドミントン部は、女子ダブルス（加藤美幸選手 体育専門学群2年／柏原みき選手 同2年）および女子団体において優勝しました。女子団体の優勝は2年連続4回目、本年度は主要大会全制覇という快挙です。11月4日には表敬訪問を行い、学長や副学長らに報告しました。

また、バスケットボールの第67回全日本大学選手権大会では、男子が2年連続2回目（東京教育大学を含むと3回目）、女子は10回目の優勝を成し遂げました。男女共に日本一は、史上2校目、国立大学としては初の快挙です。



▲バドミントン部表敬訪問



ソクラテス・サンバ・カフェ



11月22日に、BiViつくば筑波大学サテライトオフィスに隣接しているつくば総合インフォメーションセンター（つくば市）にて「ソクラテス・サンバ・カフェ」が開催されました。人文社会科学部哲学・思想専攻が主催する哲学カフェで、哲学の知識は一切必要なく、一般市民の方々を含め、どなたでも参加できるものです。事前にテーマを設定せず、本名や所属を明らかにしないというルールで、当日集まった参加者の関心によってその日話し合うテーマを決定し、参加者全員で身近なことを掘り下げていきます。

この日は、「経験すること」「他人を理解すること」などについて、思い思いに経験やアイデアを語りました。考え方の違う他人の言葉

に耳を傾け、共に考えていくことで、それぞれが少しだけ「新しい見方で世界を見る面白さ」を感じることができたのではないのでしょうか。

「ソクラテス・サンバ・カフェ」は原則として、毎月第4日曜日14:00～17:00に、東京キャンパス文京校舎またはつくば市内で「街カフェ」、また毎月第4水曜日13:45～16:30に、筑波大学中央図書館エントランスで「図書館カフェ」を開催しています。詳細は以下URLをご参照ください。
(<http://tetsugaku-cafe.com/>)





受賞



Award and Prizes

第26回つくば賞を受賞

茨城県内で科学技術関連の研究に携わり、優れた業績を上げた研究者をたたえる第26回つくば賞に、澁谷彰教授（医学医療系 生命領域学際研究センター）が選ばれ、11月24日に授賞式が行われました。受賞対象となった研究は「難治疾患の克服を目指した免疫受容体の研究」です。



▶ 澁谷彰教授



受賞名	受賞者（所属・学年）	指導教員
日本食品工学会 2014年度学会賞	中嶋光敏教授（生命環境系 北アフリカ研究センター）	——
日本教育心理学会 2014年度優秀論文賞	藤桂准教授（人間系）	——
平成27年度 高分子学会日立化成賞	山本洋平准教授（数理物質系 学際物質科学研究センター）	——
平成27年度 日本動物学会奨励賞	中野裕昭准教授（生命環境系 下田臨海実験センター）	——
第110回日本医学物理学会学術大会 優秀研究賞	照沼利之助手（医学医療系 陽子線医学利用研究センター）	——
日本脳腫瘍の外科学会 会長賞	阿久津博義講師（医学医療系）	——
日本陸水学会第80回大会 最優秀ポスター賞	荒居博之研究員（生命環境系）	——
Design Solution Forum 2015 最優秀講演賞	小野雅晃技術専門職員（システム情報工学等技術室）	——
2015年日本地域学会著作賞	谷口守教授（システム情報系）	——
独立行政法人日本学術振興会 平成26年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当） 及び国際事業委員会書面審査員の表彰	繁森英幸教授（生命環境系）	——
第1回放射線ワークショップ ～未来に繋ぐ放射線研究～ 優秀演題賞	松本孔貴助教（医学医療系 陽子線医学利用研究センター）	——
日本医師会 医学研究奨励賞	福田慎一講師（医学医療系）	——
1st Runner-Up Theoretical Paper Award	イリチュ（佐藤）美佳教授（システム情報系）	——
ET / IoT Technology アワード 特別賞	山際伸一准教授（システム情報系）	——
改組 新 第2回日展 第3科彫刻 文部科学大臣賞 受賞	柴田良貴教授（芸術系）	——
情報処理学会 2015年度山下記念研究賞	野口康人 （図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士後期2年）	井上智雄教授 （図書館情報メディア系）

2015年度グッドデザイン賞を受賞

本学の教員・学生が、2015年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を3件受賞しました。

■ 竈の活用を通じたコミュニティ活性化活動「竈プロジェクト」

芸術系が中心となっていく創造的復興プロジェクトの一つ（指導／原忠信准教授 芸術系）で、土を使って自分たちで作った竈を、被災地に自転車で運んで煮炊きすることで、食に集うコミュニティの活性化を図るものです。

学生：今実佐子（人間総合科学研究科 芸術専攻 博士前期2年）、宮崎玲子（同2年）、山口大空翔（同1年）、大川真紀（同1年）、伊藤香里（芸術専門学群4年）、佐々木楓（同）、高橋佳乃（同）、丹治遥（同）、角田真季（同）、早川翔人（同）、安田泰弘（同）、遠藤茉弥（社会学類4年）、大野銀河（同）、田邊淳一郎（同）、渡辺雄太（同）、菊地絢女（芸術専門学群3年）、櫻井咲人（同）、佐山円未（同）、當田亜利（同）、町長しおり（同）、吉村勇紀（同）、藏本航（同2年）、江橋佑奈（比較文化学類2年）、宮坂優希（同）



▲「竈プロジェクト」

■ 広場「三帆ひろば」

都市デザイン研究室、野中勝利教授（芸術系）が率いる大学院生中心のチームが、土浦市の要請で、「アート×デザイン」によって、空き地を市民の憩いの場に変えました。

学生：大竹英理耶（人間総合科学研究科 芸術専攻 博士前期2年）、イーエマル・ブーア（同）、竹淵翔太（同博士前期2015年3月修了）、大島卓（同博士後期2015年3月修了）

■ 「空中プラズマ触覚映像描画装置 [フェアリーライト]」

落合陽一助教（図書館情報メディア系）らが、医療などで使用されるフェムト秒レーザーを使って空中に映像を描く手法を発明しました。

※3件の詳細はグッドデザイン賞 ホームページ（<http://www.g-mark.org/>）参照

受賞名	受賞者（所属・学年）	指導教員
第47回日本化学工学会 優秀ポスター賞	西村裕介 （生命環境科学研究科 生命産業科学専攻 博士後期3年）	王碧昭教授 （生命環境系 遺伝子実験センター）
第64回高分子討論会（東北大学川内キャンパス） 優秀ポスター賞	林宏紀 （数理工学物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士前期2年）	後藤博正准教授（数理工学物質系 学際物質科学研究センター）
第30回高分子学会 関東支部茨城地区若手の会交流会 優秀賞	白石僚一郎（グローバル教育院 エンパワーメント情報学プログラム 一貫制博士3年）	山海嘉之教授（システム情報系 サイバニクス研究センター長）
生体医工学会シンポジウム2015 ベストリサーチアワード	鈴木愛未 （数理工学物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士前期2年）	辻村清也准教授（数理工学物質系）
66th Annual Meeting of the International Society of Electrochemistry in Taipei 優秀ポスター発表賞	神佳弘（人間総合科学研究科 芸術専攻 博士前期2年）	原忠信准教授（芸術系）
2015 55th ACC CM FESTIVAL ラジオCM部門 アンダー29	横江祐二（人間学群 教育学類4年）	角田武 未来構想大学講座 「創造学群表現学類」講師 （OB コピーライター・電通）
第64回読売教育賞・優秀賞（外国語部門）	佐藤賢吾（人間学群 心理学類4年）	
国際公開シンポジウム 「Conservation of Marine Biodiversity under Global Environmental Change」Student Poster Award	前田昌寛（教育研究科 教科教育専攻1年）	卯城祐司教授（人文社会学系）
第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	塙宗継（生命環境科学研究科 生物科学専攻 博士後期2年）	中野裕昭准教授 （生命環境系 下田臨海実験センター）
日本水処理生物学会 第18回論文賞受賞	森田望美（生命環境科学研究科 生物科学専攻 博士後期3年）	齊藤康典教授 （生命環境系 下田臨海実験センター）
39回（2015年秋季）応用物理学会 講演奨励賞	渡部陽太（数理工学物質科学研究科 化学専攻 博士後期1年）	市川淳士教授（数理工学物質系）
2015年度日本言語テスト学会 最優秀論文賞	類家翔（生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期1年）	張振亜教授（生命環境系）
	馬場正和 （数理工学物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士後期3年）	末益崇教授（数理工学物質系） 都甲薫助教（数理工学物質系）
	濱田彰 （人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻 博士後期3年）	卯城祐司教授（人文社会学系）

※所属・職名・学年は受賞時

筑波大学校友会

TAA: University of Tsukuba Alumni Association

今回は、海外同窓会ネットワーク強化のため、2015年10月に開設した「T-Net」と2015年11月に開催した第18回ホームカミングデーについてご紹介します。

Tsukuba Alumni Network (T-Net) サイトオープン

海外同窓生ネットワークの強化を目的として、2015年10月1日、ウェブ上にTsukuba Alumni Network (T-Net) を開設しました。T-Netは、ウェブ上に開設された本学同窓生間の「つながりの場」(プラットフォーム)です。T-Netに登録することで、例えば、次のようなことが可能になります。

「ベトナムでの起業に興味があり、同じ学類出身のベトナム人留学生を探してコンタクトをとり、相談に乗ってもらった」(同窓生)

「ドイツ留学を考えており、現地に住む先輩を探して、メッセージを送ってみたら、ドイツでの生活についてアドバイスをくれた」(在学生)

「帰国後に参加するつもりでアメリカ同窓会のニュースを受け取っている。就職活動で相談したいことがあり、現地の同窓生に連絡してアドバイスをもらった」(在学生)

「以前、駐在していた上海で現地の同窓会に所属していた。帰国後も、地域同窓会ニュースを続けて受け取っていたが、来月の出張時にちょうど会合があるようなので久しぶりに参加できる」(同窓生)

11月にはスマホアプリが追加導入され、いっそう使いやすくなりました。T-Netは、本学同窓生、在校生、元教職員、教職員等がご参加いただけます。



PC画面(イメージ)



スマホアプリ(イメージ)

Data Base
簡単に自分の情報を
アップデートできる!

Searching
さまざまな条件で検索!
友人・知人を探そう!

E-mail
メッセージを送信して
つながろう!

News
地域同窓会や大学からの
お知らせを受信!

<https://global-alumni.sec.tsukuba.ac.jp>

tsukuba t-net



歓迎の挨拶を述べる永田学長



会場の様子

第18回(平成27年度)

ホームカミングデーを開催

筑波大学学園祭「第41回雙峰祭」開催期間中の11月7日に、第18回(平成27年度)筑波大学ホームカミングデーを開催しました。

ホームカミングデーは、本学(旧図書館情報大学を含む。)卒業生と、教職員等が交流を深め、本学の一層の発展に資することを目的としており、学群・学部卒業後20年を経過した卒業生を中心に、毎年お招きしているものであり、今年もそれぞれのご家族、当時教鞭をとられていた退職教員、本学関係者と合わせ300名を超える方々が一堂に集い、大盛況となりました。

本学からは、永田恭介学長をはじめ、副学長、学群長、学類長、研究科長等が出席し、会の冒頭で永田学長から歓迎の挨拶がありました。

続いて、一般社団法人茗溪会から寄附金目録贈呈が行われ、引き続き、乾杯の発声により歓談に入ると、旧友や恩師との久々の再会に話も弾み、終始和やかな雰囲気の中、同伴されたご家族とともに大いに楽しみいただけた様子でした。

茗 溪 会

MEIKEIKAI

筑波大学同窓会を母体とする一般社団法人

平成27年度茗溪会追悼のつどい

昨夏より1年間に272名の茗溪会員が亡くなられ、9月5日に追悼のつどいを挙行了いたしました。これまで筑波大学と茗溪会にご支援・ご協力をいただいたことに感謝し、ご冥福をお祈りします。



茗溪会の公開講座開催

茗溪会の公益事業の一つである公開講座を年4回開催しています。9月26日には、筑波研修センターにおいて、筑波大学名誉教授の藤原保明先生による「耳を澄まして聞く英語～藤原教授の英語の話 第12弾」。11月14日には、お茶の水女子大学にて静岡文化芸術大学 学長 熊倉 功夫 先生の「茶の湯にみる日本の和食文化」を実施しました。



ホームカミングデーに助成金

筑波大学が主催するホームカミングデーに50万円の助成金を贈りました。また、茗溪会は、学生諸活動支援（学園祭助成等）、卒業祝賀会支援など、筑波大学に毎年約800万円の助成をしています。

紫 峰 会

SHIHOKAI

筑波大学父母会組織の学生後援会

課外活動団体会計面接

紫峰会の主要三事業の一つである「運営支援事業」の中でも、特に重要なものが課外活動団体に対して実施している「会計面接」です。会計面接は課外活動団体の会計処理の充実を促しつつ、有効な援助金給付を行うため、毎年全団体（平成26年度は153団体、170会計）に対して実施しています。

会計面接は、紫峰会設立当初に学生担当教官室の佐原傳三先生が各団体に出向き、経理収支報告書の書き方を説明し、提出された収支計算書に基づいた援助対象項目を決めることから始まりました。昭和57年以降は紫峰会職員に引き継がれ、現在に至ります。

面接時の紫峰会のヒアリング内容は以下の通りです。

- ① 団体への援助金が団体の会計に入金されていることを確認する
- ② 支給された援助金の活用状況を確認する
- ③ 各団体の会計処理が円滑に行われているかを確認し、必要があれば助言する
- ④ 各団体の活動状況や活動への支援に関する要望を把握する

会計面接を全課外活動団体に実施することは大変労力のかかることですが、全団体と面と向かって話をすることができる唯一の機会であるのと同時に、学生達だけでは解決できない会計上の問題や潜在している運営上の問題にいち早く対応することができます。結果として、団体の活動を盛り立てることに繋がっています。

〈会計面接で判明する団体の問題の例〉

- ・部費滞納者が多く会計が回っていない
- ・予算を作成しておらず、自転車操業の会計になっている
- ・顧問教員と長期間連絡が取れていない
- ・会計報告である収支計算書の作成が満足にできておらず、もらえる援助金の額が本来もらえる額よりも大幅に少ない
- ・長年会計をしていた人が卒業し、会計の引継ぎが満足にされていない
- ・我流の会計をし、状況を把握できなくなっている
- ・数百万円の現金が常に手元にある
- ・徴収簿があだ名で書かれており、他の人から見て誰が誰だか分からない
- ・実際の資金残高（現金と預金）と帳簿上の残高が合致していない
- ・周りのサポートが無く会計担当者のみが会計業務の負担を抱え込み、機能不全に陥っている
- ・会計担当者が部の費用を立て替えている
- ・部費未納のまま卒業し、連絡がつかない先輩がいる

01

医学医療系講師

瀬尾 恵美子 さん

世界遺産へ行くことが好きで、夏休みに、子供が行きたがっていた平泉へ家族で行ってきました。大学生時代に友人と行ったことがあり2回目でしたが、大人?になったためか、以前はその黄金のまばゆさに目を奪われがちだった中尊寺の金色堂も、今回は螺鈿細工がとてもきれいなことに気が付いたり、違った印象で楽しむことが出



来ました。金色堂にかけられていた華鬘(けまん)という壮麗具の、透かし彫りの繊細さ、かわいらしさがとても気に入リ、レプリカの葉を買ったのですが、自宅の引き出しに20年前に買った全く同じ葉を見つけてびっくり。結局はあまり変わっていないなあと笑ってしまいました。

NEXT

今回は、体育系准教授の渡部厚一さんです。『大学の同級生です。学生時代からスポーツマンで、スポーツと医学を結びつたりのお仕事をされています』

02

附属病院国際連携推進室

深谷 めぐみ さん

こんにちは。私はいつの間にかライフワークとして、国際交流を楽しむようになりました。きっかけは、自身が世界各国の青年達と共に3カ月間、船上で過ごす経験をした事でした。この経験は私の大切な人生の糧となり、国際平和について考えるようになりました。現在の仕事もその延長上にあると考え、日々、海外からのドクター達と交流を深めています。先日もASEAN諸国からの青年30名と茨城県でホームステイや視察をして楽しみました。日本に、つくばに来てよかった、と思って頂けるよう、世界への架け橋となれるよう、楽しみながら取り組んでいます。Be a Bridge for better future! です。



筆者：右

NEXT

今回は、人文社会系准教授の菱川邦俊さんです。『ロシア語が堪能で、人間の幅の広い菱川先生。広大なロシアのように静かで深い人柄にいつも助けてもらっています』



つくばでツナガるリレ→エッセイ



05

芸術系助教

村上 史明 さん

筑波大学に職員として来てからもう7年も立ち、やっとつくばの四季を楽しめる余裕が出てきました。ギターやアウトドア、服飾など、趣味は多く飽きるのも早い私が最近取り組んでいるのが、スラックラインです。木の間にロープを張ってその上でバランスをとるスポーツなのですが、出来そうで出来ない深さにはまっています。最初は立つこともままなりません、次第に歩けるよう



になると達成感を感じます。バランス感覚と体幹も鍛えることが出来て一石二鳥です。専門である芸術も心と体の鍛錬が必要なので、これからも日々精進して参ります。

NEXT

今回は、システム情報系准教授の矢野博明さんです。『メディアアート系の展覧会では大変お世話になっております。これからもコラボレーションさせてください』

06

病院総務部医事課

高野 七重 さん

いわゆるママさんバレーボールがきっかけで、20数年来の友人たちと楽しく遊んでいます。気心が知れたおばちゃん5人組で、毎月決まった額をコツコツ積立てちょっと遠くまで国内旅行、関



筆者：右から2人目

東近隣バスツアー、石岡の柿狩りみかん狩り、残暑恒例米沢牛のBBQ、彼岸には思い出多い友人へのお墓参り等々。27年夏はコロケのコンサートで大爆笑!何を言っても受け止めてくれる懐の深さ、とっても大切なおばちゃんたち。これからも末永くお付き合い願いたいものです。さあ、次のお出掛けに向けてあとひと踏ん張り!!おしゃべり&大笑いでストレスぶっ飛びです。

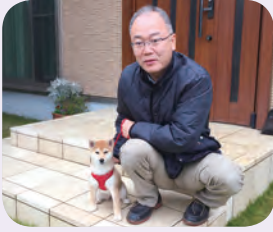
NEXT

今回は、東京キャンパス事務部学校支援課附属聴覚特別支援学校の市野塚浩子さんです。『附属図書館、東京勤務時代、そして現在と長きに亘りお世話になっています。気さくでとっても面倒見の良い方です』

03

教育推進部スーパーグローバル事業推進室

関 瑞穂 さん



9月27日、我が家に新たな家族が増えました。柴犬の「ちこ（女の子）」です。朝、階段を降りる私をじっと見つめ、散歩のために着替えるとシッポを思い切り振り、ゲージを開けると飛びついてきて顔をペロペロと。全身で喜びを表してくれる「ちこ」

は、子供たちより愛情が湧きます！？娘が大学入学、息子は中学入学と少し手を離れ、また、これまで休日は少年野球でコーチをしていたのを、息子と一緒に卒団したことから、私の休日が復活しました。「ちこ」が来てからは、早起きして散歩、昼間に散歩、夕方に散歩、夜は部屋で遊ぶといった感じで、私の休日は「ちこ」に独り占めされています。

NEXT

今回は、体育系特任助教の金堀哲也さんです。
「息子が野球部の星空野球教室でお世話になりました。先日、かわいい女の子が生まれた、新米パパです」

04

財務部契約課

海老坪 正和 さん



私の趣味はガンダムのプラモデル、いわゆる「ガンプラ」を作ることです。私がガンプラに初めて出会ったのは小学生のときで、その頃は夢中で作っていました。お世辞にも上手ではなかったですが、月日は流れ15年ほど前、玩具店で見かけたガンプラが懐

かししく手にしてみました。「今のガンプラはそのまま組んでも格好良い！」。そうして、人生2度目のガンプラブームが訪れました。今では、エアブラシで塗装してより完成度の高いガンプラを目指しています。これを読んで懐かしかった方は今のガンプラを手にとってみてください、簡単に格好良く作れますよ。

NEXT

今回は、数理工学系准教授の坂口綾さんです。
「とても明るく元気な先生です。事務の仕事の無理難題も快くご協力くださいました。感謝してます！」

5000人を越す教職員がいる本学。

その中で生まれた人と人とのつながりを、8本のバトンが渡っていきます。

07

システム情報系准教授

石川 竜一郎 さん

昨年度サパティカルを頂き、米国のカリフォルニア大学デービス校で研究生活を送ることができました。大学街であるデービスは、自転車に優しい街（＝小さな街）が売り文句で、家族共々落ち着いた一年を過ごすことができました。その街で毎月のように行われるのがマラソン大会。会場まで家から歩いていけたので、よく参加していました。大会には必ず子供たちが1マイル程度走る種目もあり、幼稚園に通っていた息子も参加賞のメダルを楽しみに、私と一緒に参加していました。息子は「自分は速く走れる！」と自信をつけて日本に帰国。帰国後も親子で大会に出場しています。



NEXT

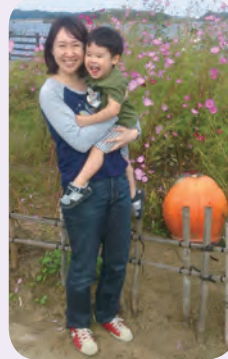
今回は、システム情報系助教の長谷部浩二さんです。
「経済学と数理論理学という異色の組み合わせで共同研究を行っている気の合う仲間です」

08

体芸エリア支援室

埜田 公子 さん

韓国ドラマにはまって約10年。今は子どもにテレビのチャンネル決定権があるため、子どもが起きている時間帯はほとんど見る事が出来ませんが、夜な夜な眠い目をこすりながら見えています。



好きなジャンルは、時代物、家族ドラマ、ラブコメディといういろいろありますが、復讐劇が特に面白いです。ありえない展開なのに先が気になって、ついつい見入ってしまいます。ドラマ好きが高じて、1年に4回韓国に訪問したり、韓国語の勉強もしたりしていましたが、育児におわれ、韓国熱は少しお休みしています。子どもに手がかからなくなってきたら、また再開したいと密かに目論んでいます。

NEXT

今回は、社会人大学院等支援室の神原清美さんです。
「同期ですっと仲良くさせてもらっています。バイタリティに溢れた行動力のあるかわいい女子です」

※所属・職名は2016年1月現在

新聞記事一覽

	記事内容	掲載本学関係者	掲載紙（掲載日）
1	鬼怒川決壊で水浸しになった公文書等の修復作業を開始。活動の中心は白井哲哉教授	白井哲哉教授（図書館情報メディア系 知的コミュニティ基盤研究センター）	朝日（10.1） 毎日（10.8）
2	守友浩教授らは有機太陽電池が発電する機構を解明	守友浩教授（数理物質系 学際物質科学研究センター）	日刊工業（10.6）
3	本学の「ライフイノベーション学位プログラム」（試験、授業が英語）のような学位コースを、各大学が積極的に取り入れて国際化を加速することが日本の大学に求められている	「ライフイノベーション学位プログラム」	日経産業（10.8）
4	王碧昭教授や野口隆明さんらの研究チームは、マウスのES細胞を分化させて胃の細胞をつくることに成功	王碧昭教授（生命環境系 遺伝子実験センター） 野口隆明（生環 生命産業 博士後期3年）	常陽（10.9）
5	大藏倫博准教授らが脳トレ運動「スクエアステップ」プログラムを開発	大藏倫博准教授（体育系）	茨城（10.14）
6	武田文教授らの研究グループが、中年者のメンタルヘルスを良好に保つ上で、運動・スポーツは人と一緒に実施することが有効と発表	武田文教授（体育系）	常陽（10.16） 朝日（10.19）
7	氏家恒太郎准教授らは、東北地方太平洋沖地震前に観測されたゆっくり地震を室内実験により再現することに成功	氏家恒太郎准教授（生命環境系）	毎日（10.17） 日刊工業（10.22） 常陽（10.30）
8	プロ野球クライマックスシリーズ開幕。福岡ソフトバンクホークスの工藤公康監督は、選手引退後、本学大学院でスポーツ医学を学んだ	工藤公康（人間総合 体育 博士前期2年）	朝日（10.22）
9	レム睡眠がないとノンレム睡眠時に出る学習や記憶の形成を促す脳波が弱くなることをマウスの実験で確認	林悠助教（国際統合睡眠医科学研究機構）	毎日・読売・日本経済（10.23） 朝日（10.23）夕
10	本学学生団体「学び場さくら塾」が無償で子どもたちの勉強を支援	学び場さくら塾 田崎智也（教育3年） 中川駿吾（応理1年）	読売（10.24）
11	第84回全国盲学校弁論大会全国大会で、附属視覚特別支援学校高等部松岡琴乃さんが3位	松岡琴乃（附属視覚特別支援学校高等部普通科2年）	毎日（10.25）
12	本学は高校生の読書会などに人文社会系の本の著者を無償で派遣する「学問本オースパジット」事業を開始	人文社会系社会連携推進室	常陽（10.27）
13	松本正幸教授と川合隆嗣非常勤研究員らが、サルを使った実験で、失敗学ぶ脳の動きを発見	松本正幸教授（医学医療系） 川合隆嗣非常勤研究員（医学医療系）	常陽（10.28、11.4）
14	16年度入試は多様な人材獲得へ改革。本学は国際バカロレア入試枠を拡大。将来的に全入学者の半数を推薦入試で		日本経済（11.2）
15	山際伸一准教授は、ミズノと共同で、人工知能（AI）が運動能力上達を指導するシステムを開発	山際伸一准教授（システム情報系）	日刊工業（11.2）
16	柳沢裕美教授と山城義人助教は、上行大動脈瘤マウスモデルを作製し、大動脈瘤の形成に関与するシグナル伝達経路を特定することに成功	柳沢裕美教授（生命領域学際研究センター） 山城義人助教（生命領域学際研究センター）	常陽（11.6）
17	第65回ヘレン・ケラー記念音楽コンクール＜ピアノ＞1部3位相原晴さん、2部2位古田土明弥さん、4部1位志岐竜哉さん＜弦楽器の部＞2位池内風香さん＜その他の楽器の部＞1位坂田優咲さん、奨励賞川嶋健太さん＜独唱＞2部1位中畑友里さん、2位鈴木萌依さん、奨励賞林真由美さん、村田明由さん	相原晴（附属視覚特別支援学校 小学3年） 古田土明弥（同 小学5年） 志岐竜哉（同 高校3年） 池内風香（同 高校1年） 坂田優咲（同 高校3年） 川嶋健太（同 中学2年） 中畑友里（同 専攻科2年） 鈴木萌依（同 専攻科1年） 林真由美（同 高校3年） 村田明由（同 高校3年）	毎日（11.8）
18	茨城県は、来年度から本学医学群の地域枠を8人増加して36人に	医学群	茨城（11.8）
19	本学にエンパワースタジオ開設。11月13日に一般公開	岩田洋夫教授（システム情報系）	常陽（11.13） 日本経済（11.16）
20	高木英樹教授らの研究グループは、デサントと共同で、ドルフィンキック速度2.4%向上の高性能水着を開発	高木英樹教授（体育系 体育センター）	日刊工業・東京（11.18） 常陽（12.3）
21	本学発の人工衛星開発プロジェクト「結」は、2号機開発のための資金を募っている	亀田敏弘准教授（システム情報系） 渡辺展正（物理3年） 永田晃大（エシス3年）	常陽（11.19） 朝日（11.25）
22	稲敷市が本学と共同で進める街づくりプロジェクトの一環で、バスターミナルに巨大漫画アートを制作。本学芸術系の学生10人が参加	菊地純平（人間総合 芸術 博士前期1年）	毎日（11.24） 朝日（12.2） 産経（12.4）
23	第26回つくば賞授賞式開催。澁谷彰教授が受賞	澁谷彰（医学医療系 生命領域学際研究センター） 江崎玲於奈元学長	読売・常陽（11.25）
24	蹴球部三丸選手が来季からJ1サガン鳥栖に加入することが内定	三丸 弘（体専4年）	茨城・常陽（11.25）
25	平成27年度医学教育等関係業務功労者文部科学大臣表彰	枝川弥生技術専門官（医学系技術室） 蛸原紀枝臨床検査技師（附属病院検査部）	読売（11.26）
26	厚生労働省が、筑波大学発のベンチャー企業サイバーダインの開発したロボットスーツ「HAL」を医療機器として正式承認	山海嘉之教授（システム情報系 サイバニクス研究センター長） サイバーダイン	茨城・日本経済・ 日経産業・日刊工業（11.25） 茨城（11.30、12.1、12.2）
27	北関東の大学ブランド力調査で、本年も本学が1位		日本経済（11.27）
28	ラグビーの関東大学リーグ対抗戦で本学が帝京大を破り、公式戦50連勝をストップさせた	鈴木啓太（体専2年） 稗田優志（体専4年）	朝日・毎日・読売・日本経済・産経・ 東京（11.30）・常陽（12.1）
29	長瀬博教授らは、脳内で覚醒状態を維持する物質「オレキシン」と同様の働きをする化合物の開発に成功	長瀬博教授（国際統合睡眠医科学研究機構）	朝日（12.3）
30	本学の学生らが、外遊びが制約されている福島の子どもに、2013年から学内のドングリを贈っている	鈴木吏良助教（医学医療系）	日本経済・茨城（12.13）、 毎日（12.15）

■ テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組（放送日）
1	睡眠医学の最先端研究を解説	柳沢正史教授（国際統合睡眠医科学研究機構長）	NHK Eテレ サイエンスZERO “眠り”のミステリー 睡眠研究最前線！（10.11）（10.17）
2	さまざまなスポーツの「スタートダッシュ」を競技ごとに分析し、その重要性に迫る	浅井武教授（体育系） 来海郁（人間総合 コーチ 3年制博士1年）	NHK BS1 ザ・データマン～スポーツの真実は数字にあり～（12.13）（12.19）

Event calendar

1 january

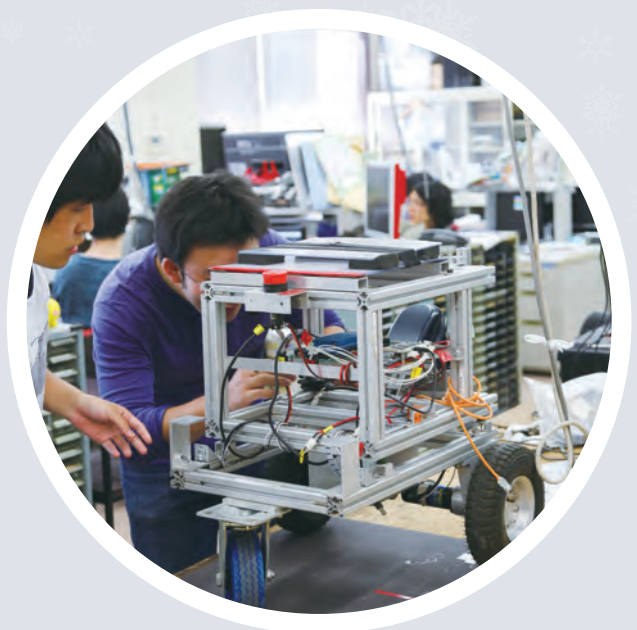
- 4日(月) 仕事始め
- 12日(火) 学長・副学長と女性研究者との懇談会(大学会館)
- 16日(土) 大学入試センター試験(～17日)
- 17日(日) City Chat Café
- 18日(月) 第2回CiRfSEワークショップ(～19日)
- 19日(火) Cosmos Café
- 20日(水) Cosmos Chat
- 26日(火) Cosmos Café
- 27日(水) Cosmos Chat
- 29日(金) 女性研究者支援シンポジウム(東京キャンパス)

2 february

- 2日(火) Cosmos Café
- 10日(水) 秋ABCモジュール期末試験(～16日)
- 16日(火) 秋学期授業修了
- 17日(水) 2015 BEST FACULTY MEMBER表彰式
- 18日(木) 春季休業(～3/31)
- 20日(土) リケジョサイエンスカフェ(春日エリア)
- 21日(日) City Chat Café
- 24日(水) ダイバーシティセミナー
- 25日(木) 入学試験「前期/私費/編入(社)」(～26日)
- 26日(金) 第4回IIISシンポジウム(国際統合睡眠医科学研究機構)
- 29日(月) ダイバーシティセミナー

3 march

- 6日(日) City Chat Café
- 7日(月) 合格発表「前期/私費/編入(社)」
- 12日(土) 第2回生命科学動物資源センターシンジウム(つくば国際会議場)
- 入学試験「後期」
- 20日(日) 合格発表「後期」
- 25日(金) 卒業式
大学院学位記授与式



TSUKUBA COMMUNICATIONS (筑波大学広報誌) VOL. 30
 平成28年1月発行 編集・発行：筑波大学広報室
 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
 電話：029-853-2063 E-mail：kohositu@un.tsukuba.ac.jp
 URL：http://www.tsukuba.ac.jp/

© 2016 筑波大学 (本紙記事の無断転載を禁じます)